①（第２号様式）

県立港北高等学校長

令和３年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 30 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月３日実施）	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①新学習指導要領の主旨を踏まえ、生徒の特性等に応じた教育課程を編成し、適切に実施する。 ②社会の変化やニーズに対応し、生き抜くための資質・能力を養うため、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを推進する。 ③生徒会活動や学校行事等を充実させ、自主性・主体性・社会性を育成する。	①新学習指導要領に基づく教育課程の策定を進める。 ②ICT を活用した学習活動のさらなる活性化を図る。 ②臨時休業期間や分散登校中等においても学習を保障できる体制を整える。	①カリキュラム検討プロジェクトを中心に新学習指導要領に基づく教育課程について、時間割編成の検討を進める。 ①②授業づくりの指針である「港北の授業デザイン」を徹底するとともに授業力向上研修会（年5回）や研究授業（年2回）、互見週間（年2回）を通して組織的な授業改善を推進する。 ②授業においてICTを効果的に活用する。オンライン授業等の研究を進める。	①教育目標の実現に向けた教育課程が編成できたか。 ①②各教科の自己評価、生徒による授業評価、職員の意識行動調査に改善がみられたか。 ②ICTを活用した授業を行う教職員が増えたか。	①カリキュラム検討プロジェクトが策定した新教育課程に基づき、新年度からの 50 分授業化と７時間授業導入を決定し、必要な見直しを行った。 ①②「港北の授業デザイン」について第１回授業力向上研修を実施した、２回の研究授業を通し、組織的な授業改善に取り組み、個々の授業力の向上へ繋げることができた。 ②ＩＣＴを効果的に活用し、授業を行うことができた。	①新学習指導要領の実施や日課表の変更に伴う課題を適宜把握し、円滑な移行につとめる。 ①②次年度は授業力向上推進重点校の指定を外れるが、これまでの取り組みを継承、発展させるため、継続して研修会を実施し、さらなる授業力の向上につとめる。 ②研修のテーマの一つをＩＣＴの利活用とし、全職員がＩＣＴを活用できるよう推進する。	①新学習指導要領について、今まで以上に授業改善が求められる中、計画的に進められていることがわかる。授業時間の変更など、遅滞、混乱なく進めるよう全教職員で話し合い、生徒へのサポートをお願いしたい。 ②ＩＣＴ活用はツールであり、手段であることをふまえ、生徒一人ひとりの関心に応じて組織的、継続的な取組をお願いしたい。授業力研修については、やった後が大事で、教員一人ひとりが、自らのアクションプランを設定していただければと思う。 ③ＩＣＴ活用について、組織的、継続的な取組をお願いしたい。感染対策を施したうえで、異校種間の研修ができるとよい。	①②新学習指導要領について、校内のＰＴを中心に検討を重ね、一定の方向性を定めることができた。50 分７時間授業への変更について、校内外への十分な理解を得ながら進めていくことが求められる。「スクールポリシー」の策定により、従来から取り組んできた「港北の授業デザイン」生徒一人ひとりの伸長すべき力について、教職員全体のコンセンサスを深めていくことが課題となる。 ②③ＩＣＴの利活用による授業への取組について、一定のレベルに達してきた。教科間の情報共有も行われ、研修の成果が表れてきた。一方で、オンライン授業から対面授業に移行（戻った）した時の利活用については、令和４年度からは始まる「１人１台端末」の導入をふまえて、さらに研究していく必要がある。	①新学習指導要領の趣旨を理解し、「主体的・対話的で深い学び」について、本校が取り組んできたアクティブラーニングの成果と合わせて、さらに推進していくことが求められる。そのために、授業研究等の機会を活用し、授業力向上に取り組む。 ②ＩＣＴの利活用について、全体としての一層のレベルアップを図るため、情報の共有化を図るとともに、教科の枠を超えた取組に一層力を入れていく必要がある。 ③オンライン授業等で蓄積されたＩＣＴ利活用のノウハウを、対面授業でも活用できるよう、内容、方法の精選を進める。また、生徒一人ひとりの学習状況を的確に把握するスキルについても向上研修を取り入れる必要があると考える。
2	生徒指導・支援	①生徒一人ひとりが安心・安全な学校生活を過ごせるよう、教育環境や支援体制の充実を図る。 ②部活動を通して、協調性・責任感・連帯感の涵養を図るとともに自発的な行動力を育成する。	①生徒全体と個別の状況を把握し、必要に応じた支援をする。 ②新型コロナウィルス感染症予防対策を十分に行いつつ、部活動の指導・運営に係る体制を整備する。	①学校生活のあらゆる場面で生徒に規範を意識させるとともに、必要に応じてケース会議やスクールカウンセラーを活用しながら個別に支援をする。 ②生徒の健康面・安全面に配慮し、活動環境や内容の適正化を図る。	①生徒が必要な支援を受け、課題解決に至るケースが増加したか。 ②部活動が効果的かつ円滑に実施できたか。	①学校生活のあらゆる場面で生徒に規範を意識させ、ケース会議やスクールカウンセラーを活用しながら個別に支援をすることができた。 ②新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行い、生徒の健康面・安全面に配慮しつつ、部活動に制限を設けながらも円滑に実施することができた。	①生徒が必要な支援を受け、少しでも当面の解決策を見出せるよう取組む。 ②さらなる新型コロナウイルス感染拡大防止対策に注力し、生徒の健康面・安全面に配慮したうえで以前の活動状態に戻すことに努める。	①生徒指導・支援について、ＳＣを有効に活用していると認識した。コロナ禍の社会状況下では弱者が生まれがちで、ハイブリッドな学習環境になじめない生徒もいる。そうした人へのサポートを強めてほしい。 ②部活動についても苦労が多かったと思うが、活動している生徒からは、コロナ禍でも対応する高校生の柔軟さを感じた。	①ＳＣの活用については、前年度より進んできている。一方で、コロナ禍における対人関係をめぐる諸問題が顕在化してきており、喫緊の課題といえる。また、ＳＮＳ等の通信ツールについてのトラブルも多発しており、情報リテラシー教育についても、積極的に取り組む必要がある。 ②厳しい条件の中で、感染防止に取り組みながら、部活動を行ってきた。感染状況の推移を見極めながら、生徒が主体的に取り組み、達成感を味わえるような活動を保障していく必要がある。	①ＳＣ、教育相談コーディネーターとの連携によるケース会議の有機的な活用について、さらに進めていく。学年内の情報共有を深めるとともに、課題対応について、学校全体として取り組む体制を作っていきたい。 ②生徒にとって安心安全な学校生活を送る中で、部活動においても、生徒の主体性を育み、目的意識を持たせるために、指導体制を作ることが課題である。感染状況の推移を見極めながら、今後とも生徒自身が達成感を持つことができるよう取り組みたい。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 30 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月３日実施）	成果と課題	改善方策等
３	進路指導・支援	①3年間を見通した体系的なキャリア教育を実践し、生徒の自己実現力を高める。 ②生徒の個性や多様な進路希望に適した進路支援体制の充実、拡充を図る。	①キャリア教育を充実させ、自らのキャリアプランを構築できる資質･能力を育成する。 ②前年度の大学入試改革を踏まえ、外部機関等を活用して、情報収集を行い、進路ガイダンス体制を充実させる。	①「私の未来地図Ⅰ～Ⅲ」＜総合的な探究の時間＞を中心としたキャリア教育を実践するとともに、模試等を効果的に活用する。 ②外部機関等を活用した進路ガイダンスや研修会を実施し、生徒の個性に寄り添う進路指導を行う。	①探究的活動が進展し、3 年間を見通したキャリア教育の充実が図れたか。 ②それぞれの生徒の進路に反映できたか。	①「私の未来地図Ⅰ～Ⅲ」＜総合的な探究の時間＞におけるキャリア教育の内容を精選した。模試等を活用しキャリアプラン構築の能力を育成した。 ②外部機関等を活用し、教員向けの研修会を実施し、情報を共有できた。	①模試等の効果的な活用方法を考察する。 ①キャリア教育の内容の精選に努めるとともに、指導内容の体系化を図り、卒業後を見据えた働きかけを行う。 ②教員向けの研修会を充実させ、進路指導の質を高める。	①「生徒の人生は自分で決めるべき」という原則を守りつつ、いろいろな選択肢を提示することにより、進路先の選択肢の幅も広がる。採用されている教材を活用することにより、相当の実践力を発揮できる。身近なものに気づかせ、粘り強く指導していただきたい。 ②キャリア教育は小学校段階から計画的に進めていくことが大切。外部機関の積極的活用を図るとよい。	①「総合的な探究の時間（私の未来地図）」を体系的に展開し、生徒のキャリアビジョン形成に一定の成果を上げてきた。また、模擬試験等の各種データを利用して、時機に応じた客観的な進路指導を行うことができた。社会状況により、卒業後の進路に不安を抱える生徒もおり、丁寧な対応が今後とも求められる。 ②新型コロナの感染状況をふまえて、放送による説明会を実施する等、対応に工夫したが、指導内容が十分に浸透しなかった面もあり、フォローが必要であった。	①「キャリアパスポート」から継続してキャリア形成を行うという点で、「総合的な探究の時間（私の未来地図）」の校内での指導体制の構築が重要である。研究母体の検討も含め、次年度以降の取組を考えていきたい。 ②外部機関との連携について、新型コロナの感染状況から対応の難しい面もあった。平時に戻った時に十分な活用ができるよう、校内の指導体制についてその点を意識しながら継承していきたいと考える。
４	地域等との協働	①地域との連携･協働により、「開かれた学校づくり」を推進する。 ②保護者･地域への情報提供に努め、家庭･地域の支援体制を充実させる。	①学校行事や地域防災等において、地域と連携した教育活動を展開する。 ②本校の教育活動や取組について、積極的に情報発信する。	①近隣小中学校との行事や地域との防災訓練等に積極的に参加する。 ②学校ホームページの内容の充実を図り、更新を積極的に行う。	①地域との連携･協働を推進できたか。 ②常に最新の情報をHP上で提供することができたか。 ②中学生の志願状況等に反映できたか。	①新型コロナウィルス感染拡大の状況の中で、地域の行事のほとんどが開催できない中、校内での体制維持に努めた。 ①コロナ禍で、学校紹介動画等を工夫して作成した。 ②11 月、12 月の学校説明会はオンライン開催へと変更したが、２月まで継続して再生数を伸ばし、一定の広報効果があった。	①感染状況の終息により平常の活動が再開された時のことを見通して、地域との連携、協働による生徒の活動の場を保証するための校内の体制維持に努める。 ②閲覧しやすいホームページの構築に努め、情報発信の充実を図る。	①２年間実施できなかった「ふるさと祭り」について、令和４年度は対策を施しながら実施したいと考える。以前のように高校生が参加できるとよい。 ②オンラインでの学校説明会の開催、動画配信等いろいろ工夫されていることを確認した。苦境下でも方策を見つける姿勢そのものが評価されるべきであり、地域、ＰＴＡ、「同窓会等に伝わると思う。地域との関わりの中で、生徒の防犯意識についても、地域として支援できる体制を整えている。	①新型コロナの感染状況から、ほとんどの活動が中止または延期を余儀なくされた。感染状況の改善を意識しながら、地域との連携について考えていく必要があった。 ②本校の情報を発信するために、ＨＰの充実（動画配信、ＶＲ手法の採用等）を図り、一定の成果を上げた。しかし、掲載されている情報の更新についてばらつきがみられたため、課題となった。 ②説明会のオンライン開催等、中学生及びその保護者への訴求効果はあったが、微妙なニュアンスが伝わりにくい面もあり、内容の精選が課題となった。	①地域連携がほとんど実践できなかったため、校内での継承性は重要な課題となっている。校内人事の関係もあり、平成 30 年度以前の実施状況が見えない中、新しいあり方の創造という観点からも、校内の取組について検討することが求められる。 ②ＨＰの内容の時機をとらえた更新については、校内の体制整備等の取組を通じて、積極的に行っていきたい。 ②本校の情報発信を丁寧に行うとともに、生徒の活動の様子が中学生や外部にも伝わるよう、内容の精選、工夫をしていきたい。
５	学校管理 学校運営	①学校運営協議会を活用しながら地域との連携･協働を推進し、地域とともに歩む学校づくりを推進する。 ②定期的に不祥事防止研修会を実施し、教職員の危機管理意識を高める。 ③生徒と向き合う時間を確保するために、教員の働き方改革を推進する。	①昨年度の学校運営協議会で課題として挙げられた事項を学校作りに生かす。 ②不祥事防止ゼロプログラムに基づき、不祥事防止研修会を実施し、事故不祥事やハラスメントの根絶に向け取り組む。	①地域･PTA･同窓会等との連携による生徒への支援体制作りの充実をはかる。 ②マニュアルやルールに則った業務遂行、個人情報の適切な取扱い、人権に配慮した職務行動等を徹底する。	①昨年度の課題が学校運営に生かされたか。 ②事故不祥事やハラスメントに対する意識が高まり、未然防止につながったか。	①新型コロナウィルス感染拡大の状況で、行事関係のほとんどが計画通りに実施できなかったが、可能な限り連携をとるように努めた。 ②不祥事防止の観点から時機をとらえて、月１回のペースで。研修会を行った。 ③業務の可視化、効率化を図り、働き方改革を推進した。	①行事の実施状況等から、業務の継承性に大きな課題を残した。次年度以降に向けて、ＰＴＡ、同窓会等との連携を図り、活動の活性化に取り組みたい。 ②不祥事防止への意識啓発については、今後も課題意識を持ち業務に取り組むよう努めたい。 ③業務内容の見直しを図り、意識を高める体制づくりをさらに進める。	①行事が開催できない等はこの状況下でやむを得ない。事態が好転した時に即時に地域連携ができるよう準備を怠らないことが今すべきことである。今までにない内容、方法で協力して進めていただきたい。高校３年間を有効に生かし、規範意識の向上と、思いやりのある人間関係構築を目指してほしい。行事の継承性について、ＰＴＡでも課題になっている。これからも情報交換していきたい。	①地域とともに歩むという点からは、この２年間具体的なアクションを起こすことは難しかった。新しい視点も取り入れながら、今後に向けて取り組む必要性がある。 ②不祥事防止の点から、研修会を実施し、事故防止やハラスメントについての注意喚起を図った。研修により、事故の未然防止に結び付けることができたが、問題意識の希薄な面もあり、今後も継続的に取り組む必要がある。 ③業務の可視化を図るとともに、アンバランスの是正に取り組んだが、まだ十分とは言えず、継続して見直しを行う必要がある。	①地域、ＰＴＡ、同窓会等との協働は、本校の教育活動を支えていくうえで重要な要素である。生徒への支援体制という観点から、さまざまな人材の活用について、今後とも継続的に取り組みたい。 ②成績処理、入学者選抜、会計業務等、マニュアルの内容を確認するとともに、常に当事者意識をもって業務に取り組むよう、意識啓発に努めたい。 ①③地域等との連携については、グループ業務の中で位置付け、活性化を図りたい。